職員の手ほどきを受け真剣な表情の生徒

感じました。」と感想を述べていました。

最後に、間島署長から「この体験を機に、木や森のこと、地域とのつながりについて更に勉強してください。」と激励して体験学習を終了しました。

東濃署は、今後も森林環境教育や職場体験学習を通じて地域の子供たちに森林について学んでもらう活動にも協力していきたいと考えています。

「あがりこサワラ」で森林学習

[中信署] 毎年、松川小学校四年生を対象に行われる村の炭焼き体験と併せて、隣接する馬羅尾国有林の郷土の森内の「あがりこサワラ」の森林学習（見学会）を十一月二十八日に行いました。

この見学会は、中部局と北安曇郡松川村が、平成二十四年一月に「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」協定の締結により行っています。

あがりこサワラとは、樹木を台伐りすることにより、萌芽し奇妙な樹形となるものを一般的に「あがりこ」と呼んでおり、サワラにおいてもこのあがりこ型樹形が見られます。しかし、サワラの萌芽力は低く特徴として、台伐り位置を固定せず徐々に上方へと伐採し側枝を主幹として立ち上がらせることで奇妙な樹形を形成していったものをいいます。

当日は小雨であったため、炭焼き体験を終えた後、村の林遊館にて児童にあがりこサワラについて森林教室を行い、天候を見ながら現地見学を実施しました。

あがりこサワラの見学

全体で百十三本ある「あがりこサワラ」の中には、子供がくぐり抜けることのできる根張りをした形の樹もあり、寒い中でも児童達は珍しいサワラ巨木群を間近で見て感動に浸っていました。森林学習終了後には、署で作製した「もっくん」（桜枝ストラップ）を児童一人一人に配布し学習の記念としました。

あがりこサワラをくぐる児童

今後も松川小学校の「あがりこサワラ」森林学習は継続的に行っていくことから「郷土の森」として愛着がわくよう、代表的なサワラにニックネームを付けるなど、併行して来年度にかけて松川村と案内看板や標柱を設置していくことで、地域振興に貢献していきたいと考えています。

「林政協議会木曽谷部会」の開催
民国林野行政の連携に向け

[木曽署] 十一月二十七日（水）に木曽森林管理署、南木曽支署と長野県木曽地方事務所で構成する林政協議会木曽谷部会が開催されました。

当部会は、木曽谷流域の国有林及び民有林の林政を統一的に推進することを目的に年二回、署と県が持ち回りで、現地検討会や打合せ会議を実施しています。

今回は、木曽地方事務所林務課、木曽森林管理署、南木曽支署、木曽森林ふれあい推進センターの十七名が参加し、南木曽支署管内の柿其国有林の架線集材箇所と阿寺国有林の樹齢百四十年のヒノキ人工林展示林で現地検討を行い、県職員の方々からは、「作業現場を見る機会が少なく、特に近年民有林では少なくなった架線集材を見られた。樹齢百年を超える間伐現場を見ることはない」とのことで熱心に質問されていました。

その後、当署会議室で打合せを行い、国有林の一般会計化と森林整備推進協定を締結したことも踏まえ、地方事務所からは民有林の森林整備の労働力の不足、森林整備推進協定に伴う共同施業団地の設定と協議会の開催、ニホンジカ対策の状況等の情報提供があり、国有林側からは来年度の生産事業の予定、センサーカメラを用いたニホンジカの生息状況の把握、共同施業団地の設定推進、病虫害対

策等の情報を提供し、意見を交換しました。

現地での検討会

特に、木曽谷流域の林業労働者の確保には、事業体に対し将来にわたる信用性の高い事業量等を提示することが不可欠であり、流域全体の共同施業団地の設定の早期実現に取り組むこと、ニホンジカ等の獣害対策には生育状況等民・国で情報を共有し、林業施策を進めることを確認しました。

次回は三月に実施の予定ですが、引き続き、顔が見える関係を深め迅速で気軽な連絡調整を行うことにより木曽谷流域の森林・林業の発展に努めていきたいと考えています。

「戸隠森林植物園」でボランティアによる冬支度

【北信署】十一月二十二日、長野国有林森林整備協会北信支部会員十二名が社会貢献活動の一環として戸隠森林植物園でボランティア作業を行いました。

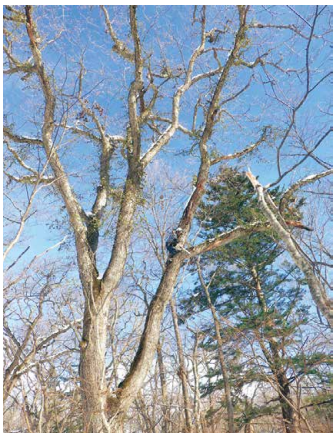
戸隠植物園では積雪前に閉園の準備を進めていますが、当日は例年になく早い降雪があり、積雪の中での作業となりました。

作業は、バリアフリー歩道に転落防止と湿地帯への侵入防止のため設置してあるグリーンロープの撤去作業と歩道沿線にある枯枝等の除去作業を実施しました。

グリーンロープ巻き取り作業

グリーンロープの撤去は延長二キロに及ぶ区間のロープを巻き取っていく作業ですが、巻き取りがスムーズに出来るように要所に人員を配置し、連携してロープをたぐり寄せながら手際よく作業を進めていきました。

枯枝の除去は、入園者の安全確保のため落下の恐れのある枝を事前に打合せのうえ実施しました。


枯枝除去作業

樹上でのチェンソーによる枯枝処理は危険を伴う作業ですが、森林整備協会員ならではの熟練した見事な技術により短時間で安全に処理され、ロープ撤去作業をしていた参加者からも手際の良さに感嘆の声が上がっていました。

ボランティアの皆様のおかげで、今年も沢山の来園者により賑わった植物園も冬を迎える準備が整いました。

しばらくは白銀に埋もれて来春の開園を待つこととなります。

OBからの便り

「マメやったかな」
～古川営林署OBの集いに参加～

岐阜県飛騨市古川町にあった古川営林署は、国有林の抜本的改革の取り組みの中で、平成十年に古川森林管理センターに改組され、平成十三年八月には他の暫定組織とともに廃止され七十年の歴史に幕を下ろしました。それから十二年。当時古川営林署に在籍した人たちの間から集まりを希望する声が出たことから、「OBの集い」を計画。十一月十六日(土)、想い出の地の老舗料亭「蕪水亭」に遠くは北海道から、最高齢は九十歳の方など各地から四十三名が集い、当時の想い出や近況などに話がはずみました。

当日は紅葉も最後の輝きを見せる小春日和の穏やかな日となり、早くからJR飛騨古川駅に降りて懐かしい町並みを散策する人がいたり、会場となる蕪水亭では開始となる一時間も前から続々と集合、早くも昔談義が始まっていました。

集いには来賓として井上久則飛騨市長、菅沼武旧古川町長、鈴木信哉中部森林管理局長、清水信之飛騨森林管理署長にご出席を賜り、来賓の挨拶では井上市長からはたくさんの人が古川に集まってくれたお礼とともに、飛騨市周辺が平成十一年に大きな自然災害に見舞われたこ

とから、これを教訓に森林づくりに取り組む飛騨市の姿と国有林への期待などの挨拶をいただきました。

菅沼元町長からは古川営林署が廃止され跡地の有効活用で国有林と話し合い、今では市民の様々な活動の拠点となる施設の整備ができたといったお話や、国有林への期待などの挨拶をいただきました。

挨拶をされる井上久則飛騨市長

鈴木局長からは、営林署がなくなると在籍した職員も集まらなくなることから、昨年は王滝営林署の関係者が集う会を開催。今年はここ古川営林署の関係者で取り組んでいただいた。こういった形で少しでも地域のお役に立てればと挨拶をいただきました。

老田薫元次長の乾杯で宴が始まり、飛騨地方の祝宴では「めでた」が出ないと無礼講とならないことからその間に、参加者一人一人から自己紹介をいただきました。そのあと、地元の土洞昭博さんから「はだか祭り」で有名な「起こし太鼓」のいでたちで古川めでた「若松様」の歌い出しをしていただき、参加者全員で唱和し無礼講へと…。

はだか祭りのいでたちで「若松様」を歌う土洞昭博さん

無礼講になるとそれぞれ懐かしい顔のところへ行き、飲むほどに、酔うほどに、話が盛り上がり大宴会となりました。参加した人たちからは、「本当に懐かしいな。マメやったけ」「一度みんなで会えればいいなと思っとたけど、こんな機会を作ってくれて嬉しい。」など、満面の笑みで語っていました。また、残念ながら参加できなかった方からの電報やおいしい焼酎の差し入れなど、会場の外からも宴の場を大いに盛り上げていただきました。

あっという間の三時間が過ぎ、最後に北海道から参加の日高北部署首席森林官中山佳之さんの一本締めで中締めに。名残を惜しみながら帰る人、街中に繰り出す人など賑やかな集いとなりました。

参加いただいた皆様、ご来賓の皆様、そして電報などをいただきました皆様に心からお礼を申し上げます。会場の蕪水亭の女将さんからは建物が平成十六年の豪雨で被害を受け、今の建物は河合村から移築したものと紹介がありました。おいしいお酒と料理をありがとうございました。

それにしても本当にお酒が強い人ばかり…。

無礼講となり大宴会

シリーズ「森林官からの便り」

【木曽署　瀬戸川森林事務所】

地域統括森林官　菊池　洋二

木曽森林管理署の王滝地区は、霊峰御嶽山の南側山麓から西は岐阜県境までが管轄区域で、統合前は旧王滝営林署が設置されていましたが、現在は、瀬戸川・氷ケ瀬・南滝越の三森林事務所で約二万六千ヘクタールの国有林を管理しています。

木曽ヒノキの生産の最盛期には、約三百人にも及ぶ職員が働いていましたが、現在では、森林官三名、主任森林整備官一名、治山事業所主任一名、地域技術官一名、森林技術員五名、併せて一一名が一つ屋根の下で協力して事業を進めています。

王滝事務所全職員

木曽ヒノキの優良木が宝庫だったこの地では、古くからヒノキの植林が行われ、樹齢百年前後の高齢級人工林の林分がたくさんあり、本年度の間伐事業も百二十四ヘクタールで一万二千立法メートルを生産する他、主伐でも木曽ヒノキ等約三百三十立法メートルを生産する予定です。

また、過去の伐採に伴う造林事業も膨大なもので、下刈りや除伐、薬剤散布等一千ヘクタールに及びます。

この他、総延長三百二十キロメートルに及ぶ林道の維持修繕、約二百箇所の収穫調査や択伐箇所の更新調査、巡検等様々な業務がありますが、これらの事業を進めるには、森林官等だけでは到底困難なことです。幸いにも今年度から基幹作業職員が森林技術員や地域技術官となり、森林官の補助的な業務に従事することになりましたので、彼らの強力な応援を得て、王滝の森林事務所は一体となって事業を展開しています。

瀬戸川の木曽ヒノキ

ヘリ集材の様子

国有林が木曽ヒノキの一大生産地として事業を進める一方、地元王滝村は、霊峰御嶽山の信者や一般登山及びスキー等の観光を主な産業として発展してきましたが、社会情勢の変化により他の地域同様に入込者数も著しく減少しています。村としても生き残りをかけ様々な取り組みを行っています。その一つとして、愛知用水の水瓶である牧尾ダムの繋がりもあり、名古屋市などの下流域との交流が盛んに行われているとともに、広大な国有林等の大自然をフィールドとしたマラソン大会やマウンテンバイクレースが年五回実施され、毎回、千人前後が参加する大きな大会として定着しています。

また、木曽ヒノキの生産の最盛期に木材の搬出や地元住民の生活にも活躍してきた、森林鉄道を復活させ、二年おきにフェスティバルも開催されています。

地元あっての森林事務所として、これら、地域のイベントにも積極的に協力するなど、地域と連携を深め、業務を進めていきたいと考えております。

境界巡検（御嶽山）

人のうごき

林野庁人事（抄）　　十二月一日付

▽林野庁国有林野部業務課測定専門官
〔森林整備部企画官（技術開発・普及担当）〕　佐竹　敏郎

十二月十六日付

▽林野庁林政課企画課計画保全部計画課生態系保全係長〕　市川　隆史

中部森林管理局人事　　十二月十六日付

▽計画保全部計画課生態系保全係長〔飛騨署栃尾森林事務所森林官〕　山本　武郎

▽飛騨署栃尾森林事務所森林官併任〔飛騨署本郷森林事務所森林官〕　原田　昌弘

行事・会議等の予定

◎中部森林技術交流発表会
1月29～30日　中部局

ご当地自慢

岐阜市編

8

岐阜森林管理署

◆金華山

岐阜の「ええとこランキング！ベストテン」で堂々の一位となった金華山（国有林）は、岐阜市の中心部に位置し、標高は三百二十九メートルと低いものの御嶽山や濃尾平野の眺望がすばらしく、年間百万人もの登山者が訪れる市民の憩いの場となっています。

平成二十三年二月「史跡岐阜城跡」に指定され、江戸時代から四百年間手つかずの自然が残り景観と歴史に恵まれた岐阜市のシンボルとなっています。

金華山と長良川

◆長良川

岐阜市の中心を流れる長良川は、大日ヶ岳から伊勢湾に注ぎ、昭和六十年には「名水百選」に選ばれた美しい川であり、また、河川では唯一、平成十三年の「日本の水浴場八八選」にも選定された水量豊かな清流です。

◆長良川鵜飼と鵜飼観覧船造船所

古典漁法を今に伝える長良川鵜飼は、千三百年以上の伝統を誇り、見る者を幽玄の世界へと誘う夏の風物詩となっています。

長良川鵜飼い

この鵜飼を、陰で支えるのが鵜飼観覧船造船所です。市営の造船所は全国唯一で、伝統的な和船の建造段階を見学することができます。

鵜飼観覧船造船所

観覧船の材料は、岐阜・長野県産の良質なコウヤマキ（長さ五メートル、末口四十センチメートル以上）を使用しますが、一本の丸太から使用できる板は八枚くらいしかとれません。また、設計図面はなく、経験豊かな船大工の匠の技で建造され、観覧船一隻の完成には約半年間かかり、一年間に二隻の船が造られます。

造船風景

◆古い町並みの川原町

長良橋南詰の鵜飼観覧船のりばから西へ続く「湊町・玉井町・元浜町」の町並みは通称「川原町」といい、格子戸のある古い町並みが今も残る人気スポット。

この地域は江戸時代より長良川の重要な湊町として奥美濃からの木材や美濃和紙の陸揚げがされ、それを扱う問屋町として栄え、特に美濃和紙は岐阜提灯、岐阜和傘、岐阜うちわなど岐阜の伝統工芸には欠くことのできない物で川原町が岐阜の工芸品を生んだといえます。

古い町並みの川原町

◆アクセス

ＪＲ岐阜駅から岐阜公園まで

岐阜バスで約二十分